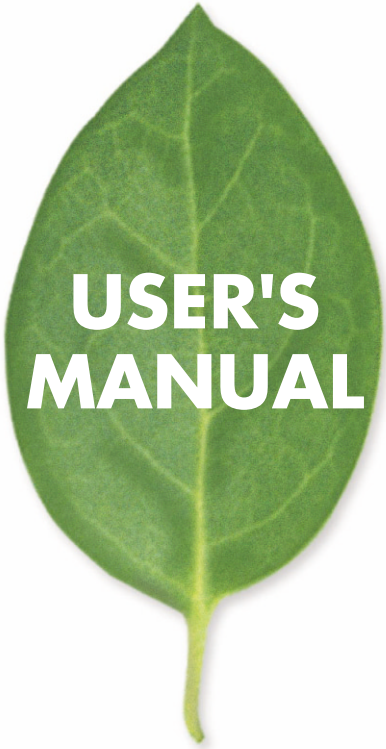


16ポートギガビット Webスマートスイッチ

SW-0214G

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

USER'S MANUAL

16ポートギガビットWebスマートスイッチ

SW-0214G

使用前に必ずお読みください

■本書の目的

本製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本書は、本製品を正しくお使いいただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、大切に保管していただきますようお願いいたします。

■ご注意

- 本製品の故障・誤作動・不具合・通信不良、停電・落雷などの外的要因、第3者による妨害行為などの要因によって、通信機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- 通信内容や保持情報の漏洩、改竄、破壊などによる経済的・精神的損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- ハードウェア、ソフトウェア、外観に関しては、将来予告なく変更されることがあります。
- 輸送費、設定、調整、設置工事などは、お客様負担となります。
- 本製品は日本国内仕様であるため、別途定める保証規定は日本国内でのみ有効です。

■著作権等

- 本書に関する著作権は、プラネックスコミュニケーションズ株式会社へ独占的に帰属します。プラネックスコミュニケーションズ株式会社が事前に承諾している場合を除き、形態及び手段を問わず、本書の記載内容の一部、または全部を転載または複製することを禁じます。
- 本書の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、本書の記述に誤りや欠落があった場合もプラネックスコミュニケーションズ株式会社はいかなる責任も負わないものとします。
- 本書の記述に関する、不明な点や誤りなどお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
- 本書および記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

●マニュアル内の表記について
本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

●記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

User's Manual Version 1.1 No.PMN-04-12-TS-SW-0214G

本製品を安全にご利用いただくために

⚠警告

本製品をご利用の際は、以下の注意点を必ずお守りください。これらの事項が守られない場合、感電、火災、故障などにより使用者の重傷または死亡につながるおそれがあります。

■ 設置及び保管に関して

・動作環境範囲外で本製品をご利用にならないでください。
範囲外の温度や湿度の環境でご利用になることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・直射日光の当たる場所や暖房器具の近くで本製品をご利用にならないでください。
本製品が加熱することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・温度変化の激しい場所で本製品をご利用にならないでください。
動作範囲内の温度であっても温度変化が激しい場所でご利用することで、結露などが原因で感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・本製品の近くに液体が入った容器を置かないでください。
本製品に液体がこぼれることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・コンピュータの取り付け口に異物などが混入しているときは取り除いてください。
コンピュータの取り付け口に異物が混入した状態で本製品を取り付けることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・本製品を分解、改造しないでください。
本製品を分解または改造することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。また改造は法律で禁止されています。

■ 取り扱いに関して

・高温に注意してください。
本製品の使用中は高温になっている恐れがあります。不用意に触ると火傷の恐れがあります。
・湿気やほこりの多いところに保管しないでください。
湿気やほこりの多いところに保管することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・本製品を重ねて設置しないでください。
本製品を重ねて設置することで製品が加熱し、感電、火災などの発生、または本製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用にならないでください。
振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用になることで、本製品の落下、誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・静電気に注意してください。
本製品は精密機器です。静電気の影響によって、製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。本製品を取り付ける際は、コネクタや取り付け部分を触れないなどの注意をしてください。
・落下や衝撃に注意してください。
本製品に落下や衝撃を与えることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

■ その他

・本製品は日本国内でご利用ください。
本製品は日本の国内法のもとで利用可能な製品です。海外での利用はできません。また、本製品ご利用の際は各地域の法令や政令などによって利用の禁止や制限がなされていないかご確認してください。

・ご利用のコンピュータのデータのバックアップを取得してください。
本製品のご利用にかかわらず、コンピュータのデータのバックアップを定期的に取得してください。万一不測の事態が発生し不用意なデータの消失や復旧が不可能な状態に陥ったとき回避策になります。なお、本製品のご利用に際しデータ消失などの障害が発生しても、弊社では保証いたしかねることをあらかじめご了承ください。

目次

本製品を安全にご利用いただくために……2

第1章　はじめに

1.概要……7
2.特長……8
3.梱包内容の確認……9
4.各部の名称……10
5.スイッチング・テクノロジーについて……13
6.VLAN機能について……16
7.Trunk機能について……19

第2章　本製品の設置

1.設置場所……21
2.設置……22
3.電源ケーブルの接続……25
4.RJ-45ポートを使用したコンピュータの接続……26
5.他のハブとのカスケード接続……28

第3章　機能の設定

1.設定ページの開き方……29
- Windows XP編……30
- Windows 2000編……36
- Windows Me/98 SE/98編……43
- Mac OS X編……48
- Mac OS 8.x/9.x編……51

2.機能設定……54
- Port……57
- VLAN……59
- Trunking……62
- Mirror……63
- Status……64
- Statistics……65
- System……66
- Trap……67

・Password ····· 68
・Backup Setting ····· 69
・Reset Setting ····· 71
・Logout ····· 71

第4章　ユーティリティについて
1.Web Switch Utilityについて ····· 73
・Web Switch Utilityプログラムのインストール ····· 73
・Web Switch Utilityプログラムの機能 ····· 79

付録A　トラブルシューティング ····· 87
付録B　Autonegotiation機能について ····· 89
付録C　AutoMDI/MDI-X機能について ····· 91
付録D　カスケード接続の制限について ····· 93
付録E　仕様 ····· 97
ユーザー登録 ····· 102
弊社へのお問い合わせについて ····· 103
質問表 ····· 104

はじめに

1 概要

本製品はIEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TXおよびIEEE802.3ab 1000BASE-T規格に準拠したギガビット対応イーサネット・スイッチング・ハブです。1000BASE-T接続用RJ-45 STPポートを16ポートと1000BASE-SX/LX接続用SFPポートを2ポート標準で装備しています。各ポートはAutonegotiation機能に対応しており、転送速度1000/100/10Mbpsおよび転送モード（全二重/半二重）を自動認識します。各ポートともステータスLEDを装備しており、容易にハブのステータスを確認することが可能です。本製品はVLAN、Trunk及びミラーリングに対応しています。

VLANはポート単位で16グループまでのVLANを構成することが可能です。Trunkは4ポートを束ねて接続することにより、本製品間で最大8Gbpsでの通信が可能になります。

ミラーリングは特定のポートで送信または受信したパケットを他のポートにコピー（ミラーリング）することができます。これによりSnifferなどの監視機器をポートに接続し、設定した別のポートを通過するパケットを参照することができます。

また、各ポートの設定をWEBブラウザによって簡単に行うことができます。

2 特長

- IEEE802.3、IEEE802.3u、IEEE802.3ab規格に準拠
- 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T接続用のRJ-45 STPポートを16ポート装備
- miniGBICを2ポート装備（15番、16番とコンボポート）
- 転送速度（1000/100/10Mbps）および転送モード（全二重/半二重）を自動的に認識異するAutonegotiationに対応
- クロスケーブル/ストレートケーブルの違いを自動認識するAuto MDI/MDI-Xに対応
- スイッチング方式にはストア/フォワード方式を採用
- 16グループまでのVLANテーブルを設定可能
- Trunk機能をサポート、2台の本製品間を最大4ポート、2グループ、8Gbpsで通信可能
- ポートミラーリング機能対応（TX、RX、Both）
- フローコントロール対応（全二重時IEEE802.3X）
- LEDにより各ポート及びネットワークのステータス確認が可能
- 標準19インチラックにマウント可能
- 各ポート機能をWEBブラウザによって簡単に設定可能※1

※1 本製品ユーティリティはWindows XP/2000/Me/98SE/98に対応しております。

Windows NT4.0/95 MAC OSは対応しておりません。ファームウェアのアップグレードはWeb Switch Utilityのみ対応しております。

対応する上記OSのインストールされたコンピュータより更新してください。

3 梱包内容の確認

パッケージには以下の付属品が含まれます。

●SW-0214G本体
●電源ケーブル
●19インチラックマウント金具(ネジ付属)
●ゴム足
●SW-0214G CD-ROM(ユーティリティ&マニュアル)
●安全に関する説明書
●保証書

同梱物に破損または欠品があるときは、お手数ですが販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

4 各部の名称

■前面パネル

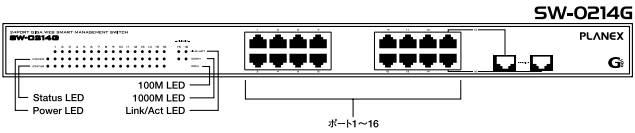


図1-1　前面パネル

「ポート1～16」
1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tツイストペアケーブル接続用のRJ-45ポートです。

「Power LED」
SW-0214Gに電源を入れると点灯します。

「Status LED」
CPU起動時に点滅、非動作時に点灯または消灯します。

「Link/Act LED」
ポートのリンクが確立すると点灯します。
ポートがデータの送受信中に点滅します。

「1000M LED」
このLEDが点灯及び点滅しているときはポートが1000Mbpsでリンクしてます。
このLEDが消灯しているときは100Mbpsもしくは10Mbpsでリンクしてます。

「100M LED」
このLEDが点滅しているときはポートが100Mbpsでリンクしています。
Link/ACT LEDが点灯しているときに、このLEDと1000M LEDが消灯しているときはポートが10Mbpsでリンクしています。

■背面パネル

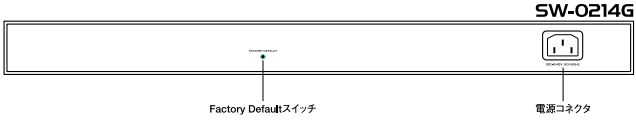


図1-2　背面パネル

「電源コネクタ」
電源ケーブルを接続します。

「Factory Default スイッチ」
Factory Defaultスイッチを押すと、設定内容が工場出荷状態に戻ります。

■裏面ステッカー

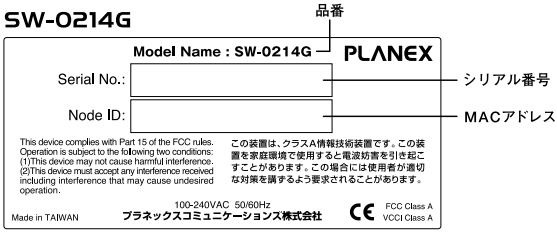


図1-3　裏面ステッカー

「品番」
本製品の製品番号です。

「シリアル番号」
本製品のシリアルナンバーです。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザー登録時に必要となります。
また、製品故障時などにサポートを受けるときにも必要になります。

「MACアドレス」(Node ID)
本製品のMACアドレスです。

5 スイッチング・テクノロジーについて

通常のリピータハブではすべてのパケットが常にすべてのポートに送信されます。

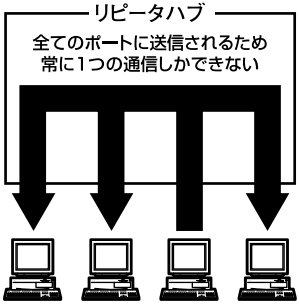


図1-4

また、すべてのポートで帯域幅を共有するため、同時に複数のパケットが送信されると衝突(コリジョン）が発生します。

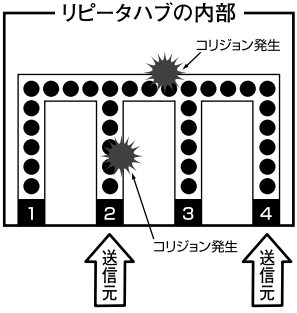


図1-5

スイッチングハブでは入ってきたパケットのMACアドレスを調べて、宛先となっているポートのみにパケットを送信します。

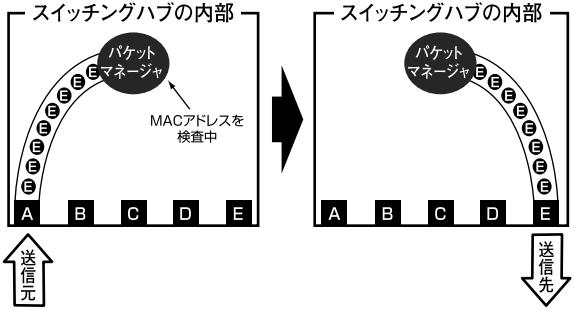


図1-6

これにより不要なパケットが他のポートに送られるのを防ぎ、ネットワークの効率を向上することが可能となります。

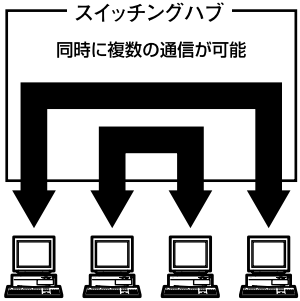


図1-7

スイッチングハブはアドレステーブルと呼ばれる領域に各ポートに接続されている機器のMACアドレスを記憶します。あるポートがパケットを受信するとそのパケットの宛先アドレスをアドレステーブルから探して該当するポートにのみパケットを送信します。

■スイッチング方式

スイッチングハブにはカットスルー方式、ストア＆フォワード方式等があります。

●カットスルー方式

パケットを受信すると即座に宛先アドレスを調べて該当するポートにパケットを送信します。この方式ではパケットのチェックは行われないのでエラーパケットも送信されてしまいます。

●ストア&フォワード方式

受信したパケットを一旦ハブ内部のパケットバッファに格納し、パケット長やCRCに異常がないか確認します。
そして正常なパケットのみを宛先ポートに対して送信し、エラーパケットが送信されるのを防ぎます。

本製品ではスイッチング方式にストア＆フォワード方式を採用しています。

■フローコントロール

パケットバッファがいっぱいになったとき、データがバッファからあふれないように制御します。半二重通信時にはバックプレッシャー機能によりバッファがいっぱいになるとコリジョン信号を送信し、データの送信を停止させます。全二重通信時はIEEE802.3xの機能により、接続先にpauseコマンドを送信することでデータの送信を停止させます。通常のリピーターハブでは、ハブ同士のカスケード接続の段数に10BASE-Tでは4段、100BASE-TXでは2段という制限があります。スイッチングハブでは各ポートが別々のコリジョンドメインに分割されるため、カスケード接続の段数の制限がなくなります。これによりルーターやブリッジを使用することなく、ネットワークの拡張を容易に行うことが可能となります。

6 VLAN機能について

VLAN（Virtual LAN）機能とは、複数ポートをグループにしブロードキャストドメインを分割することによりネットワーク上のトラフィックの軽減やセキュリティの強化を行うための機能です。
VLAN機能により分割されたグループでは、同じグループ内に接続された機器とのみ通信が可能となります。
ブロードキャストパケットを含めた全てのパケットは他のグループに送信されません。
これによりVLAN機能は以下のような長所を持つことができます。

◎ネットワーク効率の改善
トラフィックの多いワークグループをグループ化しブロードキャストドメインを分割する事により、ネットワーク上の他のワークグループへパケットが流れるのを防ぎます。
これによりネットワーク効率を改善することが可能です。

◎セキュリティの強化
グループ間では、理論的にネットワークは切断されており通信ができません。
これにより、セキュリティが重要なワークグループからのデータの漏洩を防ぐことができます。

◎コスト削減
ブロードキャストドメインを分割するために、高価でまた設定の面倒なルータを導入する必要がありません。

本製品ではポートごとにグループの設定を行います。最大24のVLANグループを構成することが可能です。設定方法については「第3章　機能の設定」の第２項「機能設定　◎VLAN」の項目を参照してください。

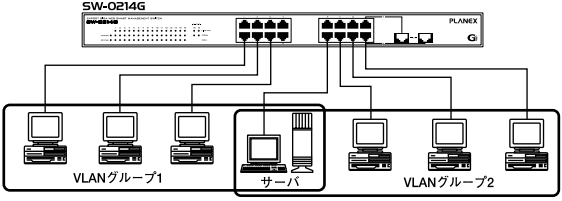


図1-8　VLAN構成例

上記のようにVLANを設定したとき、ルータを使用しなくてもグループ１・２ともサーバとの通信が可能です。
それに加えてグループ１・２間でパケットは通信されないので、効率良く、セキュリティの高いネットワークが構築できます。

◎ブロードキャストパケット
ネットワーク上を流れるパケットのうち、ネットワーク上のすべての機器が受信しなければならないパケット。(VLANやルータにより制限できます。)

◎コリジョンドメイン
リピータを介して接続されたネットワーク上で複数の機器が同時にパケットを送信するとコリジョン(衝突)が発生します。このようにコリジョン信号を共有するネットワークの範囲をコリジョンドメインと言います。スイッチングハブでは各ポートごとに異なるコリジョンドメインに分割されます。また、同じコリジョンドメインでは、ノード間距離やカスケード台数の制限があります。

◎ブロードキャストドメイン
スイッチングハブではコリジョンドメインは各ポートごとに分割されますが､ブロードキャストパケットは全ポートに送信されます。このようにブロードキャストパケットが送信されるネットワークの範囲をブロードキャストドメインと言います。一般的にはブロードキャストドメインを分割するためにはルータを使用します。

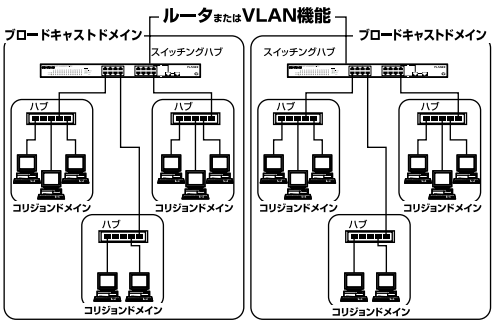


図1-9　コリジョンドメインとブロードキャストドメイン

7 Trunk機能について

Trunk機能とは、2ポートまたは4ポートを束ねてグループ化することにより2台の本製品間を最大8Gbpsの通信速度で接続する機能です。複数のハブをカスケード接続したときにボトルネックとなるハブ間の通信速度を高速化することが可能です。

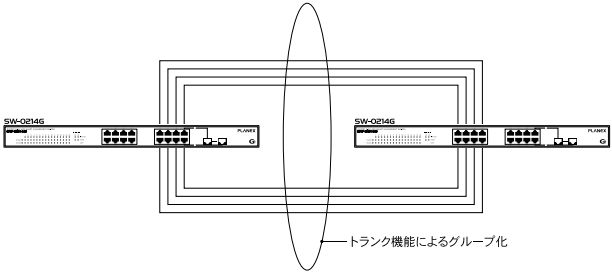


図1-10　Trunk接続

> ***注意***
> ***Trunk接続には必ずエンハンストカテゴリ5のUTPまたはカテゴリ6のUTPケーブルを使用してください。ケーブルの最大長は100mです。***

本製品の設置

1 設置場所について

本製品を設置するときには必ず以下の点をお守りください。

●湿気の多い場所に設置しない。
●チリやほこりの多い場所には設置しない。
●直射日光のあたる場所や温度の高い場所には設置しない。
●内部に熱がこもる原因となりますので、周囲にはなるべく空間を空ける。

> **⚠ 注意**
> ***本体側面の通風口にほこりなどがたまると内部に熱がこもる原因となります。定期的に点検を行い、掃除機などでほこりを取り除くようにしてください。***

2 本製品の設置

本製品は、必ず机の上などの平らな場所で使用してください。
他のハブとカスケード接続するときは、19インチラックへの収納を推奨します。

＊本マニュアルの製品仕様で定められている温度、湿度内で近くに熱源が無い場所に本製品を設置してください。又、本製品のファン取りつけ口に埃などが堆積しない様に注意してください。十分な冷却ができないときは、誤動作または故障などの原因になります。

■机の上などへの設置

1. 製品底面の４隅に、付属のゴム足を貼り付けます。
2. 本製品を平らな場所に設置します。

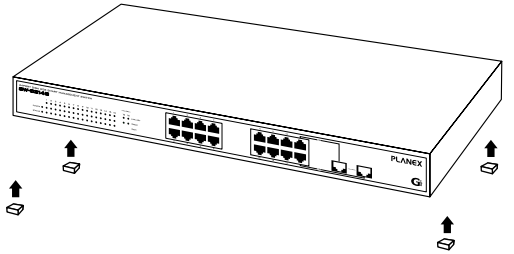


図2-1　ゴム足の取りつけ

■19インチラックへの取りつけ

以下の手順で本製品を19インチラックに取り付けます。

1. 本製品の底面に既にゴム足がつけてあるときは、すべてゴム足を取り外します。
2. 製品側面にある、ラックマウント用のネジ穴を確認します。
3. 付属のネジを使って、ラックマウント用金具を製品側面にとりつけます。プラスのドライバをお使いください。
4. 本製品をラック内に配置し、ラックマウント用金具上の穴と、19インチラックのシャーシ上の穴とを合わせます。
5. 19インチラックマウントに付属しているマウント用ネジを用意し、ラックマウント用金具に差し込んで固定します。

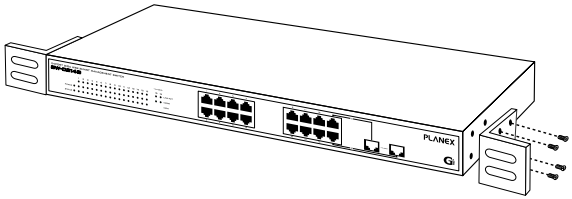


図2-2　ラックマウント用金具で取り付け

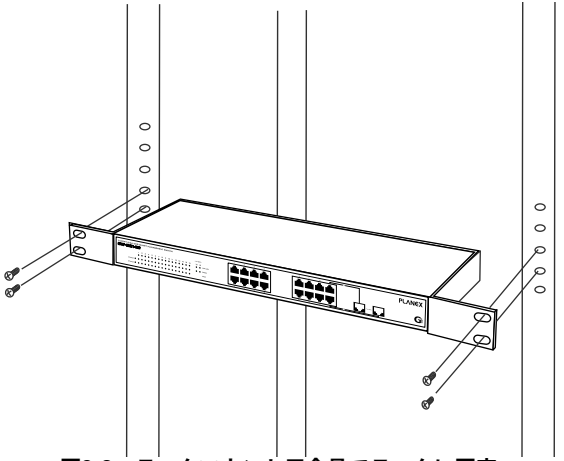


図2-3　ラックマウント用金具でラックに固定

3 電源ケーブルの接続

電源ケーブルの接続は以下の方法で行ってください。

1. 本製品背面の電源ケーブル接続部に、電源ケーブルを接続します。
2. 電源ケーブルをコンセントに接続します。
3. Power LEDが点灯、Status LEDが点滅していれば正常です。

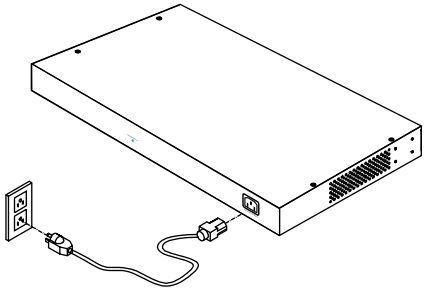


図2-4　電源ケーブル接続方法

4 RJ-45ポートを使用したコンピュータの接続

1. LANケーブルの一端を本製品の1～16のいずれかのRJ-45ポートに接続します。

2. LANケーブルのもう一端をコンピュータの10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T RJ-45ポートに接続します。

3. 接続先のポートがAutonegotiationに対応しているときはポートの転送モードが自動的に設定されます。

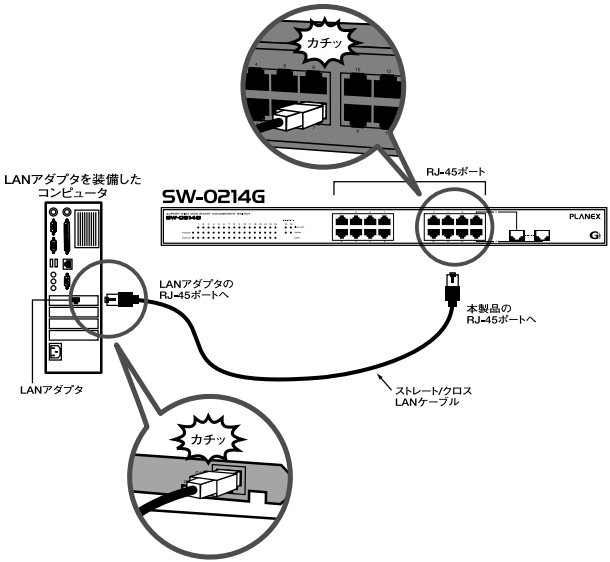


図2-5　RJ-45ポートを使用した接続

⚠ 注意

- ***接続後、通信がうまく行かないときは、付録を参照してください。***
- ***10BASE-Tでの接続にはカテゴリ3以上、100BASE-TXの接続にはカテゴリ5以上のUTPまたはSTP、1000BASE-Tでの接続はエンハンストカテゴリ5のUTPまたはカテゴリ6のUTPケーブルを使用してください。ケーブルの最大長は100mです。***

5 他のハブとのカスケード接続

1. LANケーブルの一端を本製品のRJ-45ポートに接続します。
2. LANケーブルのもう一端を本製品のRJ-45ポートに接続します。

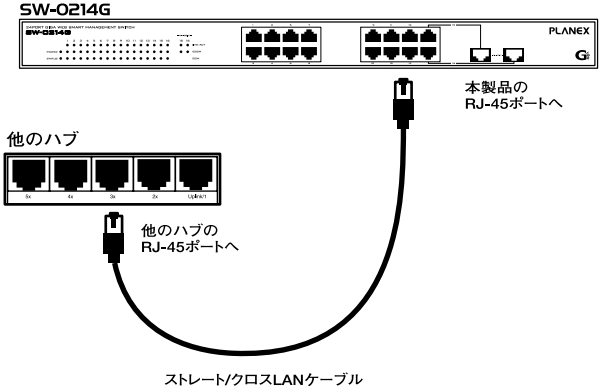


図2-6　他のハブとのカスケード接続

⚠ 注意

- *接続後、通信がうまく行かないときは、付録を参照してください。*
- *10BASE-Tでの接続にはカテゴリ3以上、100BASE-TXの接続にはカテゴリ5以上のUTPまたはSTP、1000BASE-Tでの接続はエンハンストカテゴリ5のUTPまたはカテゴリ6のUTPケーブルを使用してください。ケーブルの最大長は100mです。*

機能の設定

本製品のVLAN等の設定は、本製品前面パネルのRJ-45ポートにLANケーブルを接続したコンピュータ上で行います。
◎本製品の工場出荷時のIPアドレスは192.168.0.1です。

1 設定ページの開き方

■設定ページのアクセス方法

本製品は、Microsoft® Internet Explorer 5.0以上、またはNetscape Navigator® 6.0以上のWEBブラウザを使用して各種設定を行います。

◎起動の方法

1. コンピュータを起動します。

2. 本製品とコンピュータがLANケーブルで接続されていることを確認します。

3. コンピュータのIPアドレスの設定をします。
※お使いのOSに合わせて設定をしてください。

Windows XP	30ページ
Windows 2000	37ページ
Windows ME/98SE/98	43ページ
Mac OS X	48ページ
Mac OS 8.x/9.x	51ページ

●Windows XP編

⚠ 注意

- 「コンピュータの管理者」または同等の権限持つユーザでログオンしてください。
- 以下の操作手順および画面表示は、WindowsXPの初期状態です。Windows XPの設定によっては異なることがあります。

（1）「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」が表示されます。

（2）「ネットワーク接続」をクリックします。

「ネットワーク接続」が表示されます。

（3）「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」が表示されます。

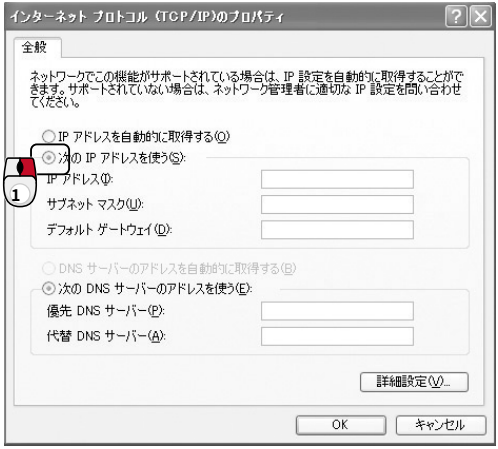
（4）「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」が表示されます。

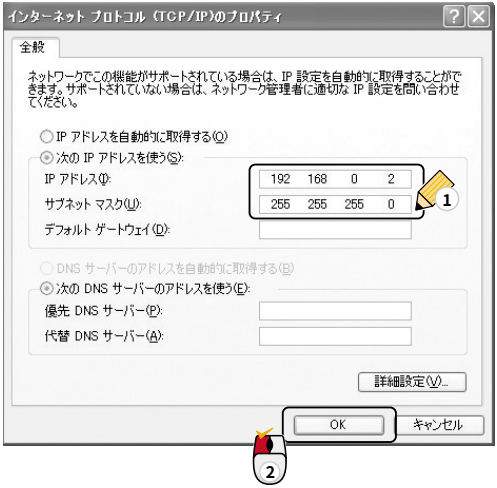
（5）「全般」の項目で「次のIPアドレスを使う」にチェックを入れます。

⚠ 注意

既に「次のIPアドレスを使う」にチェックが入っており、IPアドレスなどが記入されているとき、次の設定を行う前に、現在の設定をメモしてください。
本製品の設定後にIPアドレスなどを元に戻すときに便利です。



（6）「IPアドレス」に「192.168.0. x 」（ x は2～254の任意の数）、「サブネットマスク」に「255.255.255.0」を入力します。［OK］をクリックします。



「ローカルエリア接続のプロパティ」に戻ります。

（7） [OK] をクリックします。

以上で設定は終了です。
「4．WEBブラウザを起動します」<53ページ>へ進んで下さい。

●Windows 2000編

⚠ 注意

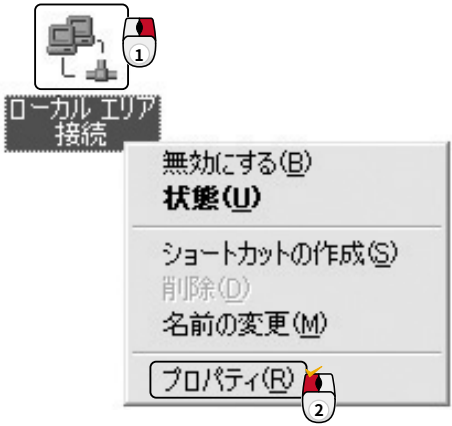
「Administrator」または同等の権限持つユーザでログオンしてください。

（1）「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択します。
「コントロールパネル」が表示されます。

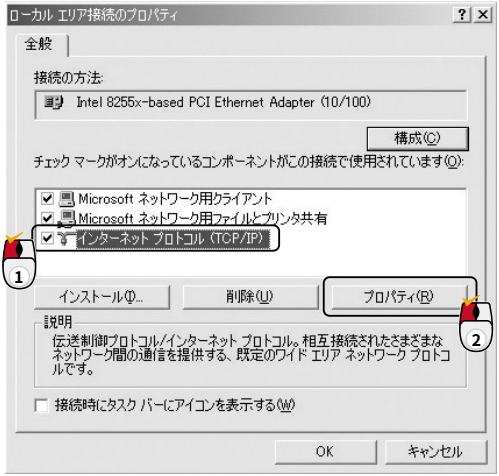
（2）「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックします。

「ネットワークとダイヤルアップ接続」が表示されます。

（3）「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。



「ローカルエリア接続のプロパティ」が表示されます。



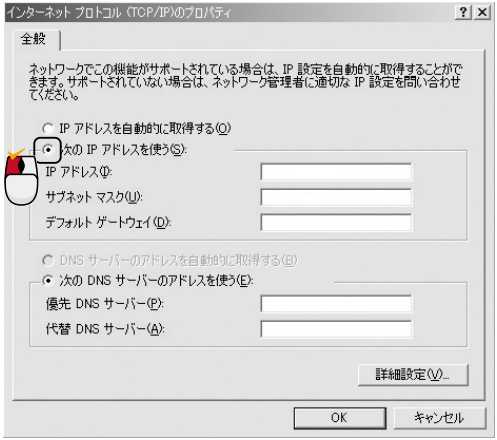
（4）「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」が表示されます。

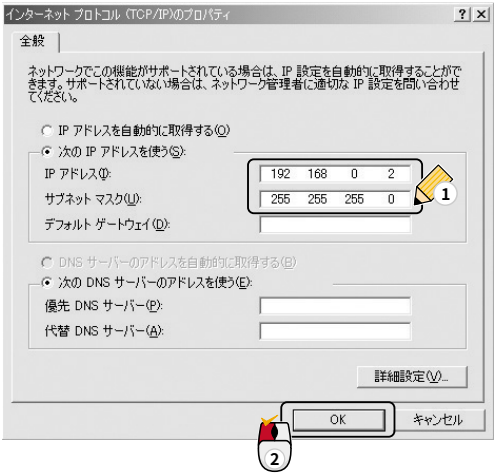
（5）「全般」の項目で「次のIPアドレスを使う」にチェックを入れます。

⚠ 注意

既に「次のIPアドレスを使う」にチェックが入っており、IPアドレスなどが記入されているときは、次の設定を行う前に、現在の設定をメモしてください。
本製品の設定後にIPアドレスなどを元に戻すときに便利です。



（6）「IPアドレス」に「192.168.0. x 」（ x は2～254の任意の数）を入力します。「サブネットマスク」に「255.255.255.0」を入力します。[OK]をクリックします。



「ローカルエリア接続のプロパティ」に戻ります。

（7）[OK]をクリックします。

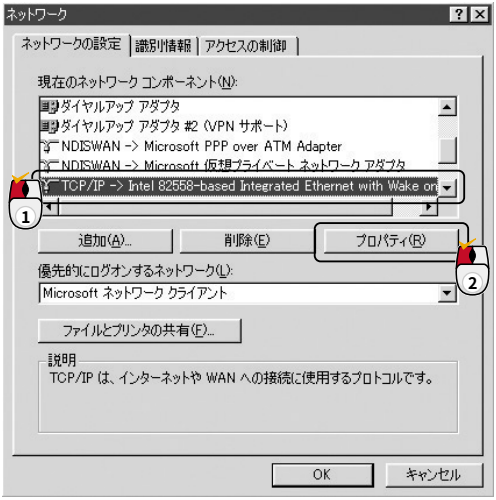
以上で設定は終了です。
「4.WEBブラウザを起動します」<53ページ>へ進んで下さい。

●Windows Me/98SE/98編

（1）「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択します。
「コントロールパネル」が表示されます。

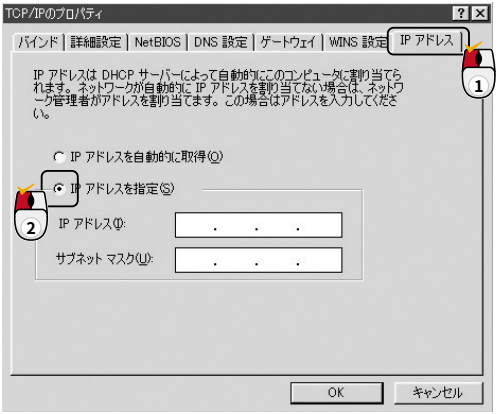
（2）「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

「ネットワーク」が表示されます。



（4）「TCP/IPーお使いのLANカード（またはLANボード）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

「TCP/IPのプロパティ」が表示されます。

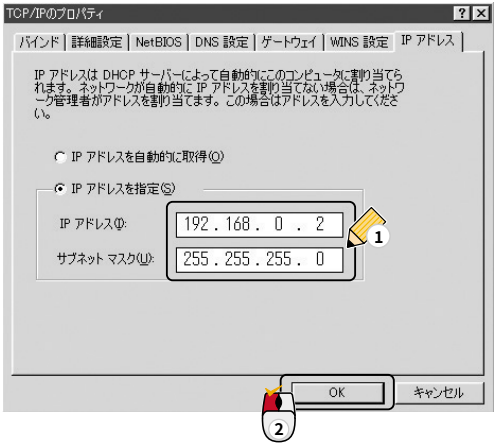


（4）「IPアドレス」タブをクリックし、「IPアドレスを指定」にチェックを入れます。

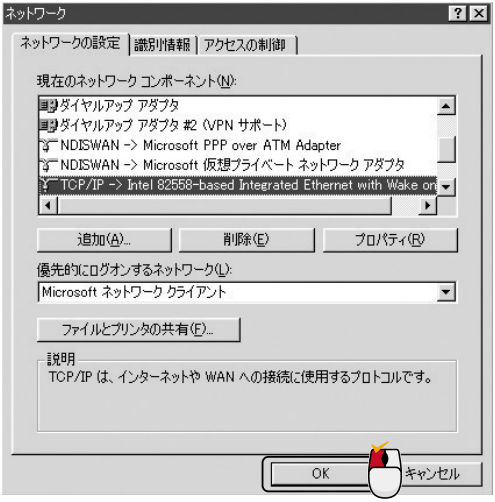
⚠ 注意

既に「IPアドレスを指定」にチェックが入っており、IPアドレスなどが記入されているときは、次の設定を行う前に、現在の設定をメモしてください。
本製品の設定後にIPアドレスなどを元に戻すときに便利です。

（5）「IPアドレス」に「192.168.0.ｘ」（ｘは2～254の任意の数）、「サブネットマスク」に「255.255.255.0」を入力します。［OK］をクリックします。



「ネットワーク」に戻ります。



（6） [OK] をクリックします。

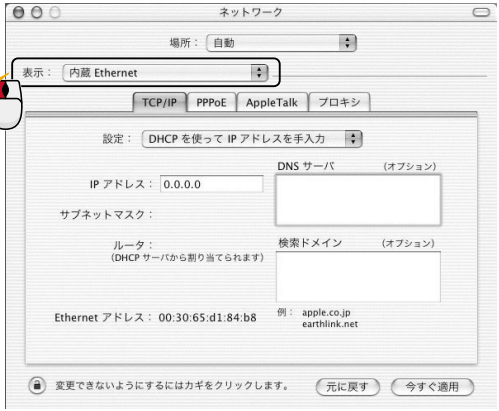
以上で設定は終了です。
「4．WEBブラウザを起動します」<53ページ>へ進んで下さい。

●Mac OS X編

（1）アップルメニューから「システム環境設定」をクリックします。
「システム環境設定」が表示されます。

（2）「ネットワーク」アイコンをクリックします。
＊「システム環境設定」に「ネットワーク」アイコンがないときは、「すべてを表示」をクリックします。

「ネットワーク」ウインドウが表示されます。

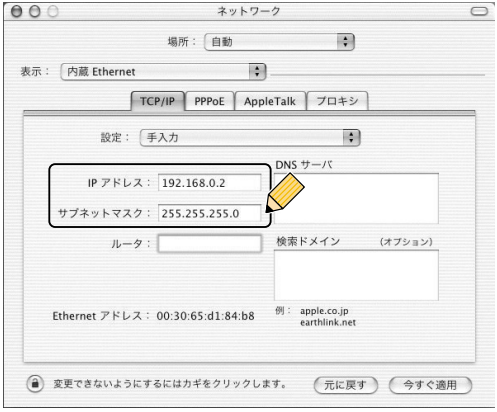


（3）「表示」の「(内蔵) Ethernet」を選択します。

（4）「TCP/IP」タブをクリックし、「設定」で「手入力」を選択します。「手入力」が表示されます。

⚠ 注意

既に「手入力」が選択されており、IPアドレスなどが記入されているときは、次の設定を行う前に、現在の設定をメモしてください。
本製品の設定後にIPアドレスなどを元に戻すときに便利です。



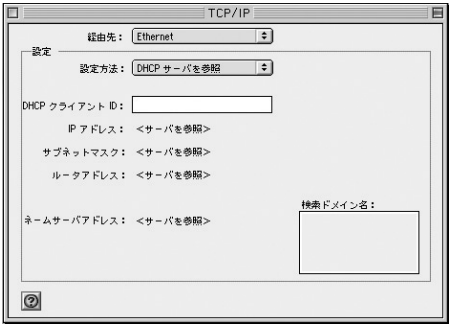
（5）「IPアドレス」に「192.168.0.ｘ」（ｘは2～254の任意の数）、「サブネットマスク」に「255.255.255.0」を入力します。
[保存] または [今すぐ適用] をクリックします。

以上で設定は終了です。
「4．WEBブラウザを起動します」＜53ページ＞へ進んで下さい。

●Mac OS 8.x/9.x編

表示される項目名は、Mac OSのバージョンによって異なります。

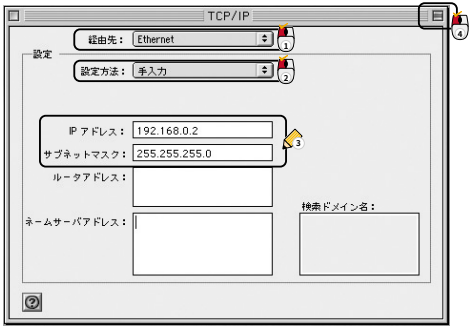
（1）アップルメニューから「コントロールパネル」の「TCP/IP」を選択します。
「TCP/IP」が表示されます。



（2）「経由先」の「Ethernet」を選択し、「設定方法」で「手入力」を選択します。
「手入力」が表示されます。

⚠ 注意

既に「手入力」が選択されており、IPアドレスなどが記入されているときは、次の設定を行う前に、現在の設定をメモしてください。
本製品の設定後にIPアドレスなどを元に戻すときに便利です。

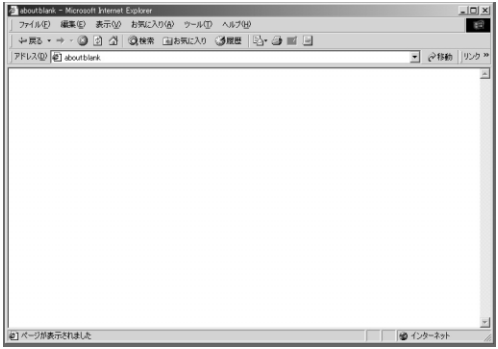


（3）「IPアドレス」に「192.168.0. x 」（ x は2～254の任意の数）を入力します。「サブネットマスク」に「255.255.255.0」を入力します。

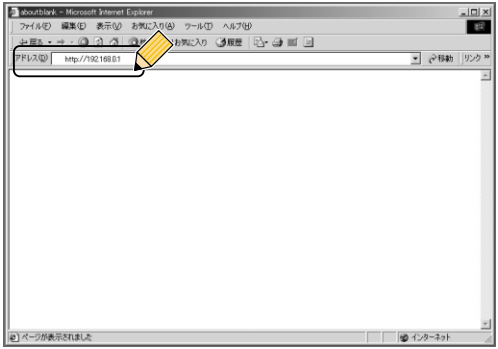
（4）クローズボタンをクリックし、ウインドウを閉じます。
確認のウインドウが表示されたら［保存］をクリックします。

以上で設定は終了です。
「4.WEBブラウザを起動します」＜53ページ＞へ進んで下さい。

4. WEBブラウザを起動します。



5. 本製品の設定ページを開きます。
アドレス欄に「http://192.168.0.1」と入力します。



6. キーボードの＜Enter＞キーを押します。

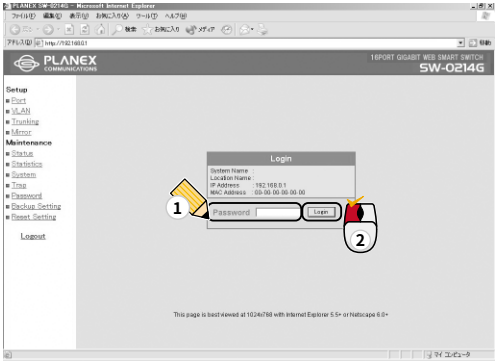
2 機能設定

◎ログインパスワードの設定方法

本製品の設定ページを始めて開いたときは、下記の画面が表示されます。

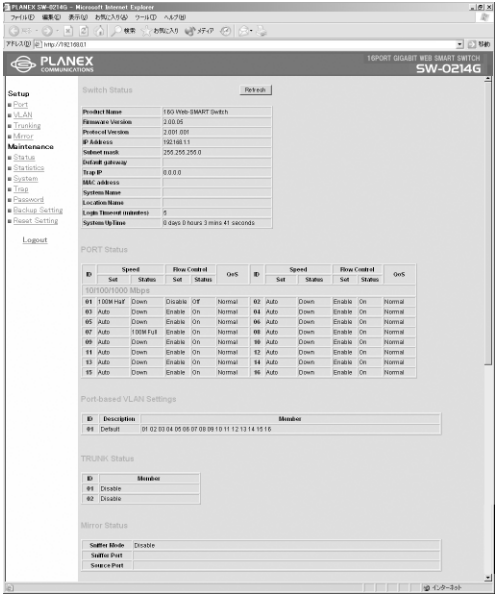
本製品は、第三者が不正にアクセスしたり設定内容を改ざんできないようにするため、ユーザーベースのセキュリティを採用しています。

1. **「password」欄に「admin」と入力します。**
[Login]をクリックします。



本製品のパスワード初期値は［admin］です。

2. ログイン後は「Status」が表示されます。
この画面は「System Status」、「Port Status」、「VLAN Status」を表示します。また、左側にメインメニューを表示します。



メインメニューについて

■Port
各ポートを設定します。

■VLAN
VLANのグループを設定します。

■Trunking
Trunk機能の設定をします。

■Mirror
ミラーリングの設定をします。

■Status
「System Status」、「Port Status」、「Port-based」、「VLAN Status」、「Trunk Status」、「Mirror Status」を表示します。

■Statistics
各ポートのパケット送受信状況を表示します。

■System
「Web Server Port」、「System Name」、「Location Name」、「Login Timeout」、「デバイスのIPアドレス」を設定します。

■Trap
トラップを指定します。

■Password
パスワードを設定します。

■Backup Setting
本製品の設定をバックアップします。

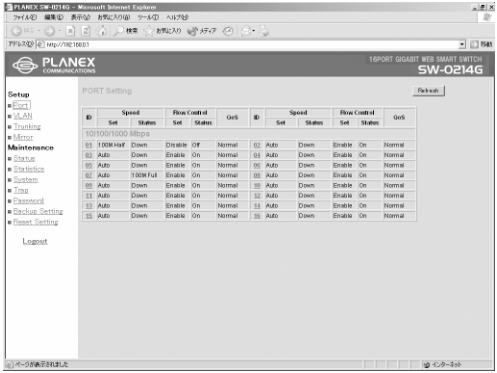
■Reset Setting
本製品の設定を工場出荷状態に戻します。

■Logout
設定画面からログアウトします。

◎Port

ポートの設定メニューから、任意のポートの「Speed」、「Flow-Control」、「QOS」を設定できます。

「Link Status」は接続状態を表示します。設定したいポートIDをクリックします。



「Speed」

この設定は5つのモードがあります。

Auto	自動認識
100M Full	100M full Duplex
100M Half	100M half Duplex
10M Full	10M full Duplex
10M Half	10M half Duplex
Disable	使用しない

上記のモードの中から選択します。
初期値は全てのポートが「Auto」です。

「Flow Control」

スイッチのフロー制御をオン/オフさせます。Enable/Disableから選択します。

Enable	フロー制御を有効
Disable	フロー制御を無効

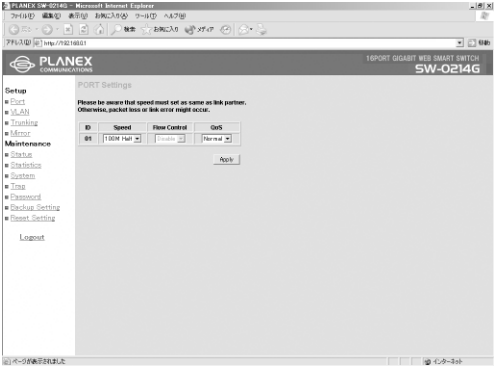
初期値は全てのポートが「Enable」です。
Speed設定がAuto以外のときは、強制的に「Disable」になります。

「QOS」

データ転送の優先度を設定します。
High/Normalから選択してください。

High	優先順位<高>
Normal	優先順位<低>

初期値は全てのポートが「Normal」です。

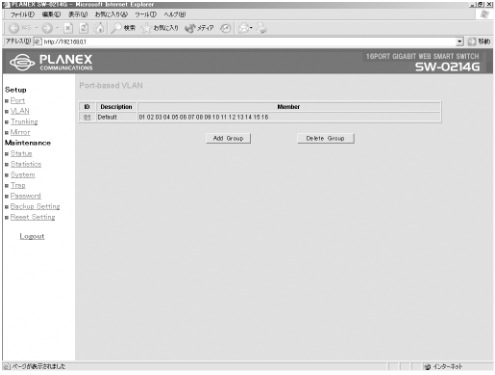


設定を保存するときは[Apply]を、保存しないときはブラウザの「戻る」をクリックします。

◎VLAN

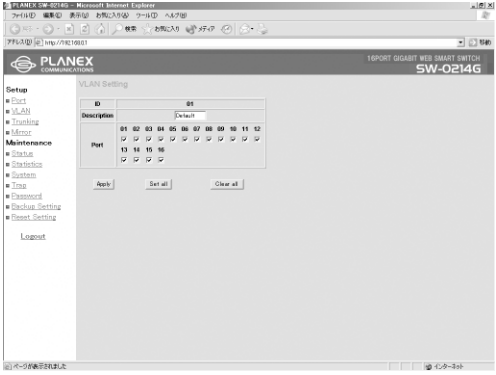
VLAN設定メニューでは、本製品上のすべてのポートをVLANグループに割り当てることができます。

本製品では最大16のVLANグループの設定可能です。



①VLANグループを編集するときは、「ID No」をクリックします。
②追加するポートにチェックを入れます。
③追加しないポートはチェックを外します。
④全てのポートを追加するときは「Set all」、を追加しないときは「Clear all」をクリックします。
⑤設定を保存するときは[Apply]を、保存しないときはブラウザの「戻る」をクリックします。

※VLANグループID No.1は「Default(初期値)」です。このグループ所属しているポートの追加を外すときは、外したいポートを他のVLANグループに所属させる必要があります。
VLANグループID　No.1を編集するときは、VLANグループを作成し、この処理を行ってください。

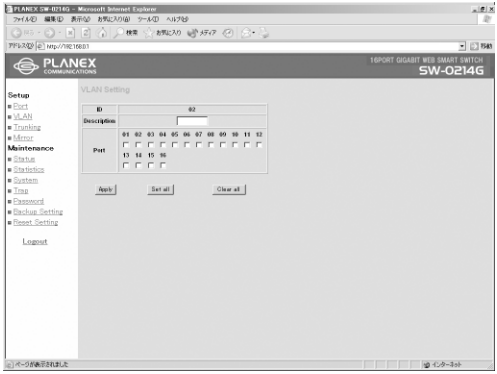


VLANグループを追加するときは

①「Add Group」をクリックします。
②追加するポートにチェックを入れます。追加しないポートはチェックを外します。
③全てのポートを追加するときは「Set all」を、追加しないときは「Clear all」をクリックします。
④設定を保存するときは[Apply]を、保存しないときはブラウザの「戻る」をクリックします。

VLANグループを削除するときは

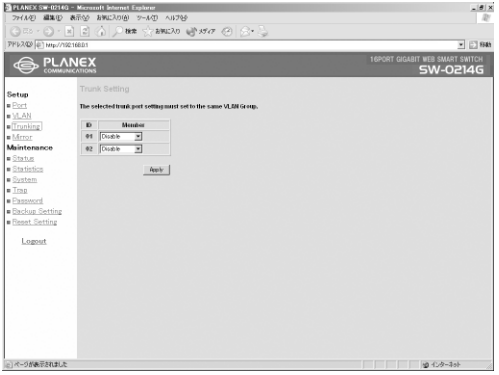
①「Delete Group」をクリックします。
②削除したいVLANグループの「ID No」横のチェックボックスをクリックします。
③設定を保存するときは[Apply]を、保存しないときはブラウザの「戻る」をクリックします。



※特定のポートをVLANグループから外すときは、外す前にそのポートを他のVLANグループに追加させる必要があります。

◎Trunk

Trunk設定をします。本製品は4ポートまたは2ポート、2グループの設定が可能です。



初期値はDisableです。Trunk設定を有効にするには、ID番号右側のポート選択によりグループ化するポートを選択します。本製品では最大4ポート、2グループの設定が可能です。

「Member」

この設定は3つのモードがあります。グループ化したいポートを選択します。

Disable	Trunk機能無効
1,2 (9,10)	2ポートをグループ化
1,2,3,4 (9、10、11、12)	4ポートをグループ化

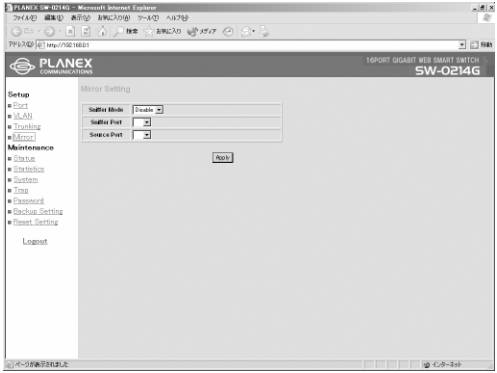
設定を保存するときは[Apply]を、保存しないときはブラウザの「戻る」をクリックします。

※ID01はポート1-4、ID02はポート9-12の設定です。任意のポートを設定することはできません。

※Trunk機能で同じグループに属するポートはVLAN設定で同じVLANグループに属する必要があります。

◎Mirror

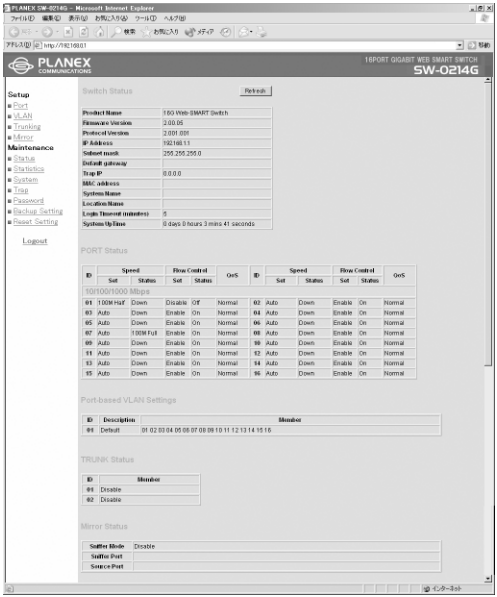
ポートのミラーリングを行います。本製品では特定のポートを受信または送信したパケットを他のポートにコピー（ミラーリング）できます。本製品ではRX（受信）、TX（送信）、Both（送受信）モードに対応しています。



Disable	ミラーリング設定無効（初期値）
RX	受信モード
TX	送信モード
Both	送受信モード

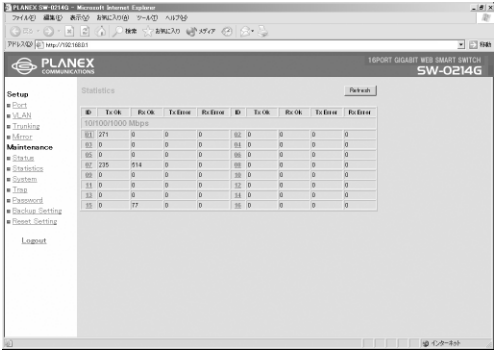
◎Status

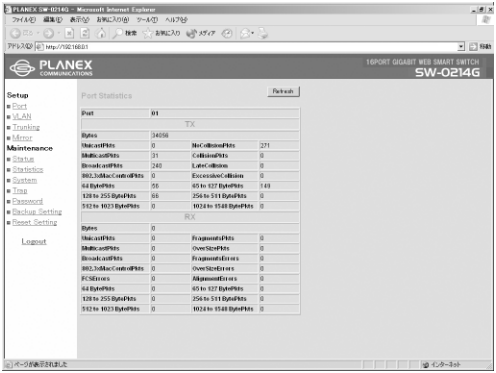
	「Switch Status」、「PORT Status」、 「Port-based VLAN settings」、「TRUNK Status」、 「Mirror Status」を表示します。
「Refresh」	クリックするとステータス画面を再表示します。



◎Statistics

「Static」の「ID No」をクリックすると、そのポートの詳細なパケット統計量を確認できます。





「Tx OK」	正常に送信されたパケット数
「Rx OK」	正常に受信されたパケット数
「Tx Error」	送信時にエラーが発生したパケット数
「Rx Error」	受信時にエラーが発生したパケット数

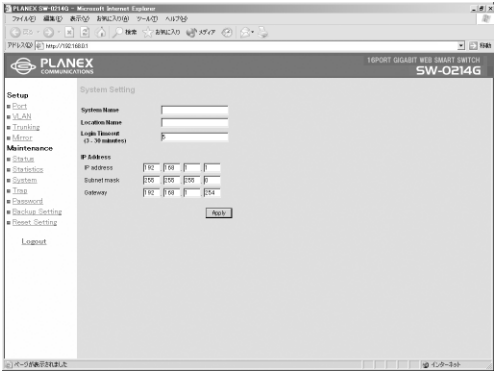
◎System

本製品の「System Name」、「Location Name」、「Login Timeout」、「デバイスIPアドレス」を設定します。

初期値

IP Address	192.168.0.1
Subnet Mask	255.255.255.0
Default Gateway	192.168.0.254

設定を保存するときは[Apply]を、保存しないときはブラウザの「戻る」をクリックします。



System Name	管理識別名（任意に名称を入力できます。）
Location Name	管理場所名（任意に名称を入力できます。）

※「System Name」、「Location Name」は必要に応じ入力できますが、空欄のままでも問題ありません。

Login Timeout	設定ページにアクセスできる時間を設定します。 3-30分の範囲で設定できます。 初期値は5分です。

◎Trap

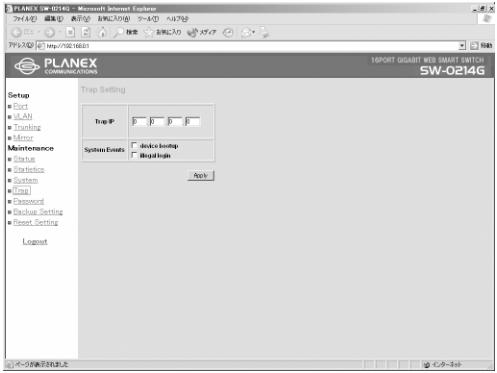
送受信エラーなど以上が発生した時、管理者に通達する機能です。
（この機能は一般的なTrapと異なり、弊社の独自仕様になります。）

Trap IP	管理者のIPアドレスを入力します。

「System Events」

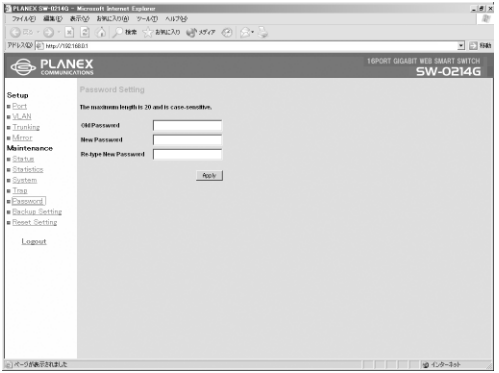
Device bootup	本製品の電源をONにしたとき。
illegal Login	不正なログイン名が入力されたとき。

①通達したい機能のチェックボックスにチェックを入れます。
②設定を保存するときは[Apply]を、保存しないときはブラウザの「戻る」をクリックします。



◎Password

新しいパスワードを設定できます。
①「Old Password」に現在使用しているパスワードを入力します。
②「New Password」に新しいパスワードを入力します。
③「Re-type New Password」に確認のため、再度新しいパスワードを入力します。
④設定を保存するときは[Apply]を、保存しないときはブラウザの「戻る」をクリックします。



◎Backup Setting

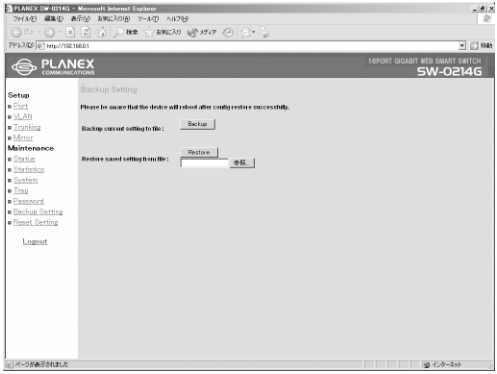
本製品の設定をバックアップします。

●バックアップ

①[Backup]をクリックします。

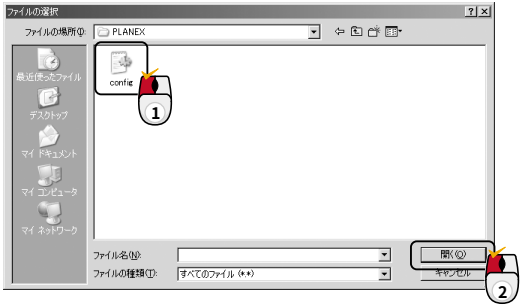
②「ファイルのダウンロード」が表示されます。「このファイルをディスクに保存する」にチェックを入れ、[OK]をクリックします。

③「名前を付けて保存」が表示されます。保存する場所を選択しファイルに任意の名前をつけて[保存]をクリックします。



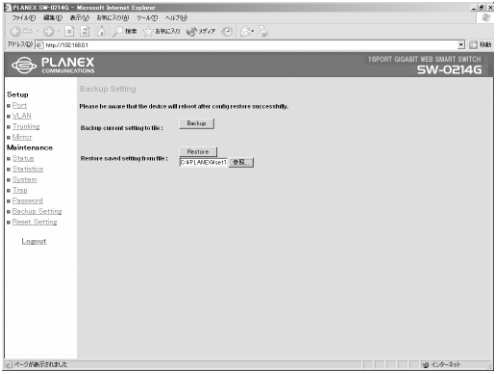
●Restore

①「Restore」は現在の設定をあらかじめ「Backup Setting」で保存した設定に置き換えます。[参照]をクリックすると「ファイルの選択」が表示されます。
ファイルの場所(保存先)を選択し、設定するファイルを選択して、[開く]をクリックします。



②[Restore]をクリックします。

③「The Browser connection will discconect,Please use new IP address to reconnect to device」が表示されます。リストアするときは[OK]を、キャンセルするときは[キャンセル]をクリックします。



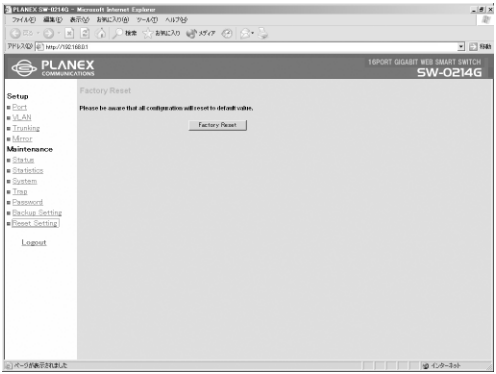
⚠ 注意

- *Restoreにより、本製品のIPアドレスが変更することもあります。WEBブラウザ設定画面に再度接続するときに、PC側のIPアドレスに変更が必要なこともあります。*
- *パスワード情報はリストアされません。初期化後は工場出荷時のadminに戻ります。改めてパスワードを変更してください。*

◎Reset Setting

[Factory Reset]をクリックすると、本製品の設定を工場出荷状態に戻します。
「The browser connection will disconnect,Please use default IP address(192.168.0.1) to reconnect to device,」と表示されます。
工場出荷時の状態にするときは[OK]、工場出荷時の状態にしないときは[キャンセル]をクリックします。

※リセットの後は本製品のIPアドレスは工場出荷時の(192.168.0.1)になります。



◎Logout

「Logout」をクリックすると、設定画面からログアウトします。

ユーティリティについて

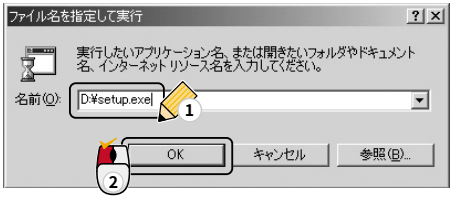
1 Web Switch Utilityについて

ユーティリティプログラムは本製品の状態をモニター、及びファームウェアのバージョンアップする時に役立ちます。

> **⚠ 注意**
> - *本製品のユーティリティはWindows XP/2000/Me/98SE/98に対応します。Windows95、MacOSはサポートされません。*
> - *ファームウェアのアップグレードはWeb Switch Utilityのみ対応しています。対応するOSのインストールされたコンピュータより実行してください。*

◎Web Switch Utilityプログラムのインストール

1. **ユーティリティCD-ROMをCDドライブにセットします。**
2. **スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。**
3. **名前にD:\setup.exe（CDドライブがDドライブのとき）と入力し、[OK]をクリックします。**



4. インストーラーが起動します。画面の手順に従ってインストールしてください。

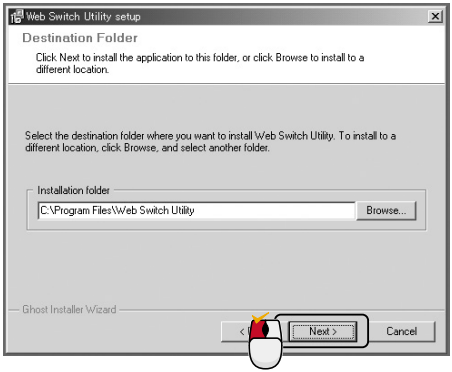
「Web Switch Utility setup」が表示されます。

①インストールを続けるときは[Next]を、中止するときは[Cancel]をクリックします。

インストール先のディレクトリを入力する画面が表示されます。

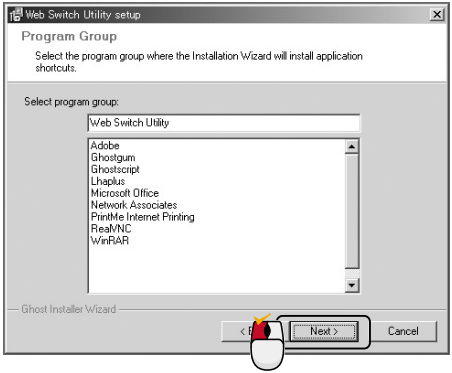
②[Next] をクリックします。

※初期値はC:\Program File\Web Switch Utilityです。
※インストール先を変更したいときは[Browse]でインストール先のディレクトリを指定します。



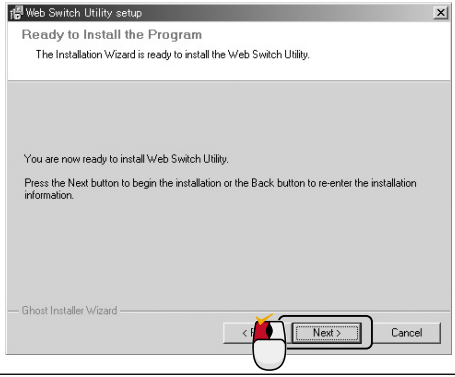
「Select program group」が表示されます。

③[Next]をクリックします。



「Ready to Install the Program」が表示されます。

④[Next]をクリックします。
　インストールが開始されます。



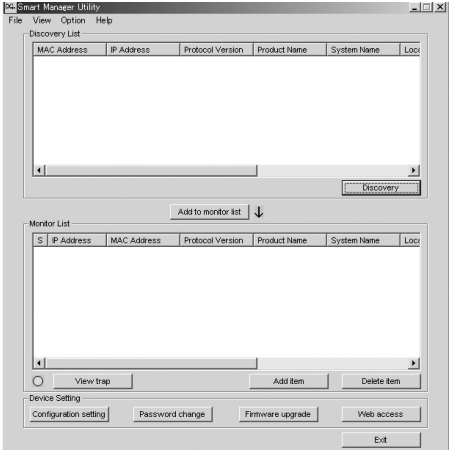
「installation Complete」が表示されます。

⑤[OK]をクリックします。インストールプログラムが終了します。

＊「Web Manager」のチェックボックスにチェックを入れるとインストールプログラム終了後にユーティリティプログラムを開始します。

※アンインストールするときは、「スタート」→「プログラム」→「Web Switch Utility」→「Uninstall Web Switch Utility」を実行してください。

5. **「スタート」→「プログラム」→「Web Manager」→「Web Manager」をクリックします**
ユーティリティが起動します。



◎Web Switch Utilityプログラムの機能

1. Web Switch Utilityモニター機能

・「File」タブには以下の機能があります。

＜Monitor Save＞

C:\ドライブにユーティリティプログラムをインストールしたときは、C:￥Program file\Web Switch Utility\cfg\monitor.cfgに設定が保存されます。

＜Monitor Save As＞
任意の場所に設定をセーブします。

＜Monitor Load＞
セーブした設定ファイルを読み込みます。

・「View」タブには以下の機能があります。

＜View log＞
本製品のトラップログを確認できます。

＜Clear log＞
本製品のトラップログをクリアします。

・「Option」タブは本製品のリフレッシュ時間を設定できます。15秒、30秒、1分、2分、5分の間隔に設定できます。

・「Help」タブはWeb Switch Utilityプログラムのバージョンを確認できます。

2. Web Switch Utility表示画面について

「Discovery List」（デバイスリスト）

MAC Adress	本製品のMACアドレスを示します。
IP Adress	本製品のIPアドレスを示します。
Protocol version	本製品のプロトコルバージョンを示します。
Product Name	本製品のプロダクト名を示します。
System Name	指定しているデバイスシステム名を示します。
Location	本製品の位置を示します。
Trap IP	トラップされた内容が送られるIPアドレスを示します。
Subnet Mask	本製品のサブネットマスクを示します。
Gateway	本製品のゲートウェイを示します。

「Monitor List」（モニターリスト）

S（Status）	本製品のシステムシンボ ルを示します。ケーブルが外れる等のデータ転送不良時に「X」が点灯します。
IP Adress	本製品のIPアドレスを示します。
MAC Adress	本製品のMACアドレスを示します。
Protocol version	本製品のプロトコルバージョンを示します。
Product Name	本製品のプロダクト名を示します。
System Name	指定しているデバイスシステム名を示します。
Location	本製品の位置を示します。
Trap IP	トラップされた内容が送られるIPアドレスを示します。
Subnet Mask	本製品のサブネットマスクを示します。
Gateway	本製品のゲートウェイを示します。

3. Web Switch Utility構成

「Discovery」

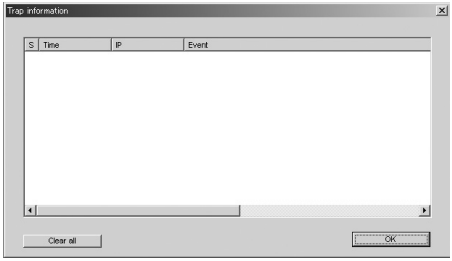
ボタンをクリックすると内部LANの全てのスイッチをスキャンします。

「Add to monitor list」

スキャンされたアイテムを選択し、このボタンをクリックするか、またはスキャンされたアイテムをダブルクリックすると、選択されたアイテム「Discovery List」から「Monitor List」へ移行します。

「View trap」

このボタンをクリックするとトラップ情報を見ることができます。このボタンの横の○が青色の時はトラップされた内容はありません。赤色の時はトラップされた内容があります。「View trap」を押すと「Trap infomation」が表示されます。トラップ情報には「S」欄に「！」が表示されます。「Description」にトラップ内容が表示されます。「Clear all」で情報はすべて消去できます。「OK」で「Trap infomation」を終了します。



「Add Item」

このボタンをクリックするとアイテムを追加できます。
外部LANの本製品を「Monitor List」に加える事ができます。本製品のIPアドレスを入力します。実行するときは [Apply]を、実行しないときは[Cancel]をクリックします。

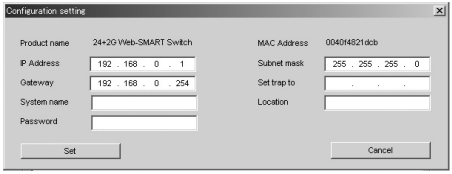
「Delete item」

アイテムを選択し、このボタンをクリックすると選択したアイテムを消去できます。

「Configuration setting」

「Discovery List」、「Monitor List」上のアイテムを選択し、[Configuration setting]をクリックすると、本製品の「Product name」と「MAC Address」を確認でき、「IP Address」、「Gateway」、「Subnet mask」、「Set trap to」、「System name」、「Location」を設定できます。

この設定はアイテムが「Discovery List」、「Monitor List」に有り、それを選択しなければ実行できません。また「Password」を入力する必要があります。実行するときは[Set]を、実行しないときは[Cancel]をクリックします。

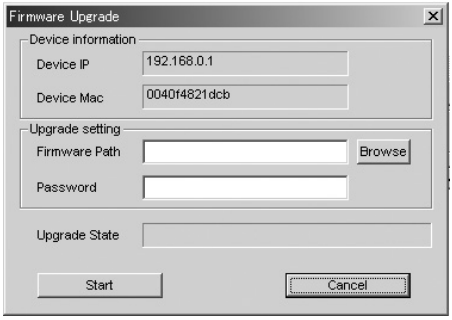


「Password change」

「Discovery List」、「Monitor List」上のアイテムを選択し、[Password change]をクリックするとパスワードを変更できます。最初に「Original password」入力し、次に新しいパスワードを「New password」を入力、確認の為再度新しいパスワードを「Confirm Password」に入力します。実行するときは[Set]を、実行しないときは[Cancel]をクリックします。

「firmware upgrade」

この機能は新しいファームウェアにアップグレードするときに使用します。「Discovery List」、「Monitor List」上のアイテムを選択し、［firmware upgrade］をクリックします。



1）「Firmware Path」にアップグレードするファイルの場所を入力します。［Browse］をクリックし、ファイルを選択します。

2）「Password」を入力します。
（初期のPasswordは「admin」です。）

3）［Start］をクリックしてアップグレードを行います。
アップグレードを行わないときは［Cancel］をクリックします。

⚠ 注意

・アップグレード中は、コンピュータ及び本製品の電源を切らないでください。
・アップグレード前に弊社ホームページ(http://www.planex.co.jp)より、本製品用アップグレードファイルをダウンロードする必要があります。

「Web access」

「Monitor List」上のアイテムを選択し、このボタンをクリックするか、「Monitor List」上のアイテムをダブルクリックする事によってWeb設定画面にアクセスする事ができます。

「EXIT」

Web Switch Utilityプログラムを終了させます。

トラブルシューティング

本製品に接続した機器間の通信ができないときは以下の点を確認してください。

●機器を接続しているポートのLink/Act LEDが点灯または点滅しているか確認してください。
Link/Act LEDが消灯しているときは、本製品と接続した機器との間でリンクが確立していません。この状態では通信はできません。

●特定のポートと通信できないときはVLANが設定されている可能性があります。
本製品のWEBブラウザ設定画面を参照し、VLANの設定を確認してください。

●Web Switch Utilityを起動し、本製品のIPアドレスが表示されないときは、ファイアウォールソフトなどの外部からの侵入を防止するソフトウェアが起動している可能性があります。
このようなソフトウェアが起動しているときは、ソフトウェアを一時的に停止してください。

●接続しているポートを他のポートに替えてください。
その状態で通信が行えるようであれば本製品のポート不良です。弊社サポートセンターまでご連絡ください。

●ケーブル不良の可能性があります。他の正常に通信ができているケーブルと交換してください。

Autonegotiation機能について

ネットワーク機器の通信速度の自動認識の方法としてはAutonegotiationとAutoSensingの2種類があります。
これらの方式には以下のような特徴があります。

◎Autonegotiation（オートネゴシエーション）
IEEEにより規定された規格。Autonegotiation機能に対応した機器同士を接続すると、機器間でネゴシエーション（交渉）を行い、通信速度（10Mbps/100Mbps）および通信モード（全二重/半二重）を自動的に選択します。

◎AutoSensing（オートセンシング）
通信速度（10Mbps/100Mbps）を自動識別します。規格化はされておらず、AutoSensing対応機器同士またはAutoSensing対応機器とAutonegotiation対応機器とを接続したときに自動認識が正常に動作せず接続できないこともあります。本製品はAutonegotiation機能に対応しています。本製品にAutonegotiation対応機器を接続したときは通信速度（10Mbps/100Mbps）および通信モード（全二重/半二重）を自動的認識します。しかし、本製品にAutoSensing機能に対応した機器を接続したとき、通信速度（10Mbps/100Mbps）の認識が正常に行われないことがあります。このときは接続する機器のAutoSensing機能を無効に設定できるときは無効にし、通信速度は100Mbps、通信モードは半二重にそれぞれ固定して下さい。

AutoMDI/MDI-X機能について

RJ-45（モジュラージャックタイプ）の配線には２種類の接続タイプがありMDI、MDI-Xと呼ばれています。

RJ-45（モジュラージャックタイプ）の配線には2種類の接続タイプがありMDI、MDI-Xと呼ばれています。

◎MDI
コンピュータのネットワークカードに使われている標準的なタイプで、端子の1-2番に送信、3-6番に受信が接続されます。

◎MDI-X
ハブのEthernetポートに使われている相手の送信が自分の受信に、自分の送信が相手の受信につながるよう、送受の関係を交差したタイプです。
一般的なMDIとMDI-X間の接続には、同じピン番号どうしを接続したストレートケーブルを使用しますが、MDIとMDI（ネットワークカード間）やMDI-XとMDI-X（ハブ間）の接続には、ケーブル内で送受を交差させたクロスケーブルを使用します。

Auto MDI/MDI-XはEthernetポートの送受信チャンネルを検知して、MDIとMDI-Xを自動的に切り替える機能です。これによりインターフェースとケーブルの組み合わせを意識する必要がなく容易にネットワークの構成が行えます。

カスケード接続の制限

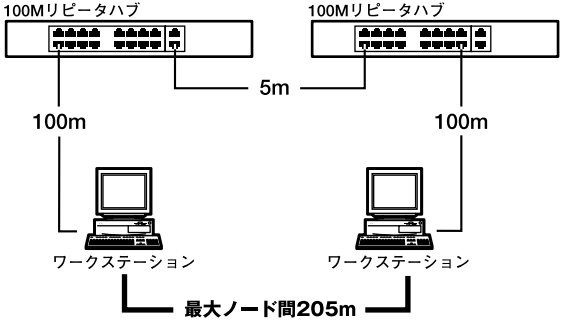
カスケード接続とは、2台のハブのポート同士をLANケーブルで接続しハブのポート数を増やす方法です。100Mbpsでは、IEEE802.3u 100BASE-TXに準拠したハブ同士であれば他社製のハブでもカスケード接続が可能です。10Mbpsも同様にIEEE802.3 10BASE-T規格に準拠していれば、カスケード接続が可能です。但し、100BASE-TXまたは10BASE-Tでカスケード接続するときは、ネットワーク上の2台ノード間（例えば任意のコンピュータ間）のハブの接続台数およびノード間距離に以下の制限あります（図D-1、図D-2）。特に、100BASE-TXにおいては、制限が厳しくなっていますので注意が必要です。この制限を越えて、ネットワークを拡張したいときには、スイッチングハブを使用します。スイッチングハブを間に入れることにより、ハブ接続台数およびノード間距離の制限がリセットされるため、スイッチングポートから再びハブ接続台数並びにノード間距離をカウントすることができます（図D-3）。
また、スイッチングハブ同士のカスケードのときは理論的にはハブの接続台数は無制限になります。

	ハブ接続台数	最大ノード間距離
100BASE-TX	2台	205m
10BASE-T	4台	500m

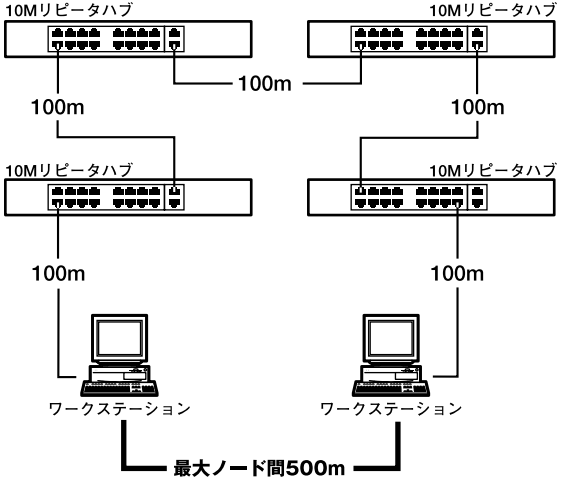
表D-1 非スイッチの接続制限

	スイッチ接続台数	最大ノード間距離
100BASE-TX	無制限	無制限
10BASE-T	無制限	無制限

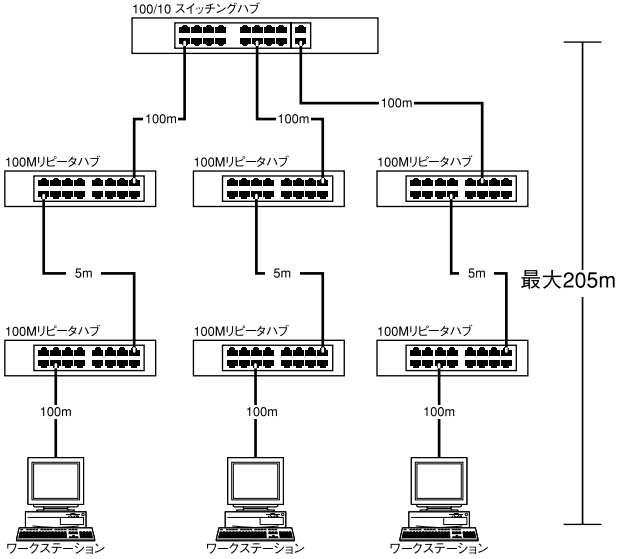
表D-2 スイッチの接続制限



図D-1　100BASE-TXでのカスケード接続の制限



図D-2　10BASE-Tでのカスケード接続の制限



図D-3　スイッチングハブを使用したカスケード接続の制限

仕様

項目	説明
型番	SW-0214G
アクセス方式	CSMA/CD 10/100/1000Mbps
対応標準	IEEE802.3 10BASE-T IEEE802.3u 100BASE-TX IEEE802.3ab 1000BASE-T IEEE802.3z 1000BASE-SX/LX IEEE802.3x Flow Control IEEE802.1p QoS
ネットワークケーブル	10BASE-T　カテゴリ3以上 100BASE-TX　カテゴリ5以上 1000BASE-T エンハンスドカテゴリ5以上、カテゴリ6
ポート構成	10/100/1000Mbps RJ-45スイッチングポートX16、 SFPポートX 2（コンボポート） （Auto MDI/MDI-X、Autonegotiation対応）
LED表示	Power、Status、1000M、100M、Link/Act
送信方式	ストア&フォワード
データ転送速度	1000BASE-T 2000Mbps（全二重） 100BASE-TX 100/200Mbps（半二重/全二重） 10BASE-T 10/20Mbps（半二重/全二重）
バッファ容量	512kbyte
MACアドレステーブル	最大8000のMACアドレスを学習可能
パケット転送/フィルタリング速度	1000BASE-T　各ポート 1,488,000pps 100BASE-TX　各ポート148,800pps 10BASE-T　各ポート14,880pps
VLAN機能	最大16グループ
QoS	2レベル
Trunk	2Port、4Portから選択、最大8000Mbps（全二重通信時） 2グループまで設定可能
ミラーリング	RX、TX、Both
AC入力	100-240 VAC、50/60HZ
消費電力	最大25W
動作温度	0～40℃
動作湿度	35-85%（結露しないこと）
外形寸法	440mm×210mm×44mm
重量	3.0Kg
EMI	FCC Class A、VCCI Class A、CE Class A

DA041214-FW20007B

MEMO

MEMO

MEMO

ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ユーザー登録を行って戴いたお客様の中から毎月抽選でプレゼントを差し上げております。

http://www.planex.co.jp/user/

弊社へのお問い合わせ

■弊社製品の追加購入
弊社製品のご購入は、販売店様またはPCIダイレクトまで。
ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。
〈PLANEXダイレクト〉
http://direct.planex.co.jp/

■製品に関するお問い合わせ
製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。
ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。
〈ご質問/お見積もりフォーム〉
http://www.planex.co.jp/lan.shtml

■技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ
製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。
〈お問い合わせフォーム〉
http://www.planex.co.jp/support/techform/
受付：24時間
〈電話〉
フリーダイヤル：0120-415977
受付：月～金曜日、10～12時、13～17時
＊祝祭日および弊社指定の休業日を除く
〈FAX〉
ファクス番号：03-5614-1018
受付：24時間

◇お問い合わせ前のお願い
サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。
お客様のご協力お願いいたします。
・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名（Windows XP/Meなど）
・ご利用のネットワークの環境（回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など）
・ご質問内容（現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されている場合はその詳細を書きとめてください）

■その他
その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。
プラネックスコミュニケーションズ
http://www.planex.co.jp/

注）上記内容は2004年12月現在の情報です。内容は予告なく変更または削除される場合があります。ご了承ください。

質 問 表

技術的なご質問は、この2ページをコピーして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

プラネックスコミュニケーションズ サポートセンター担当 行

FAX：03-5614-1018

送信日：＿＿＿＿＿＿＿＿

会社名			
部署名			
名前			
電　話		FAX	
E-MAIL			

製品名	16ポートギガビット Webスマートスイッチ
型番 Product No.	**SW-0214G**
製造番号 Serial No.	

① ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

② ソフトウェア

ネットワーク OS	バージョン
OS	バージョン

③ 質問内容

プラネックスコミュニケーションズ株式会社